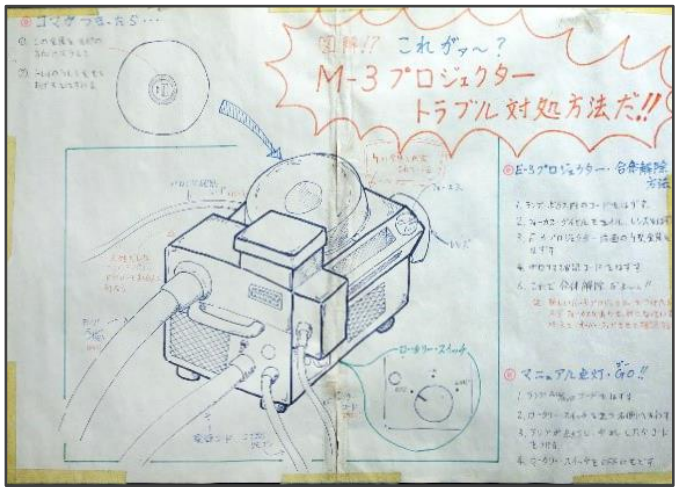
私がプラネタリウム解説者になったいきさつ

私がプラネタリウムの仕事に就いたのは、新聞でギャラクシティの求人広告を見つけたのがきっかけでした。それまではアニメの仕事をしていましたが、宇宙が好きというだけで飛び込んだ世界でした。今から 28 年前 1994 年２月、ギャラクシティ開館の４０日前の事でした。

その時集まったメンバーは、私を含めてプラネタリウムとは全く関わりのない人たちでした。ギター教室の先生、空港の整備士、音楽・映像のマニア、IT関係の仕事の経験者。正直、最初から宇宙に興味があったのは私だけだったように思います。それでもお互いの特技を生かして、プラネタリウムを動かしてきました。当時契約社員だった私は、その期間が切れるまで、およそ８年間勤めました。

その後は介護事業所に勤めましたが、１年前、再びギャラクシティの求人広告を見つけて戻ってきました。20 年ぶりのギャラクシティは、外見は変わっていませんでしたが、中の設備はすべて変わっていました。しかし、コンソール裏の機械室を訪れた時、そこには１枚の絵が残っていました。それは、28 年前ギャラクシティでの研修を始めた時、投影機の取り扱いを自分なりにまとめて絵にしたものです。28 年もの間ずっと残っていた絵を見た時、当時のメンバーに迎えられたような、そんな思いがしました。またここから私のプラネタリウム人生が始まります。



28 年前、研修を始めた時に描いた投影機の取り扱い説明図

2023 年１月５日記　(解説員：安西 俊明)